棟方志功記念館 愛染苑

棟方志功（1903–1975）は、20世紀で最も重要で影響力の大きかった日本人芸術家の1人に数えられています。彼は木版画を専門としましたが、絵画、陶芸、及び書道の作品もあり、民芸（民俗芸術）運動と近い関係にありました。青森に生まれた棟方は、成人後間もなく、絵画の道を極めようと東京に移りましたが、その後1945年には、日本を襲った空襲を避けるために家族とともに南砺市の福光に疎開しました。富山県に住んでいたのは7年ほどで、その後東京に戻っていますが、棟方は富山にも大きな影響をもたらし、その人生と作品を記念して、福光には記念館が建てられました。棟方の作品は、ブルックリン美術館、サンフランシスコ美術館、ロサンゼルスカウンティ美術館など、世界的な一流の美術館で展示されています。彼のキャリアにおいて特に重要な業績として、1956年のヴェネツィア・ビエンナーレでグランプリを受賞したことや、1970年に日本政府から文化勲章を授与されたことなどが挙げられます。